

## プログラミング・コンテスト「EPOCH@まつやま 2012」の開催に関して

### 【はじめに】

今日は、全国のプログラミングに関心をお持ちの皆様方。2007年の開始以来、盛り上がりを見せ、全国的な周知も進んでいました愛媛大学・松山市主催の「愛媛大学プログラミング・オープンチャレンジ@松山」（略称、「EPOCH@まつやま」）ですが、主催者の一部変更や財政的な問題もあり、企画の中止までを含み、実行委員会を中心に議論を重ねてまいりました。折角の、この種の灯を消してはいけないとの声を、各方面からお寄せいただいたこともあり、実施方式等を少し変更して、「EPOCH@まつやま 2012」を開催することにしました。多くの、将来は世界の ICT の発展の先頭に立とうとする若手の皆様のご参加を期待します。

以下に、今年度の変更点をいくつかあげさせていただきます。

1. 参加者を、全国の高校生、3年生以下の高専生、及び中学生とします。

大学生には、国際学生プログラミング・コンテスト(ICPC)の世界大会から予選までで頑張るチャンスがありますので、あえて、その次のクラスを募ってみても、必ずしも次世代を担う ICT 人材の底上げには直結しない可能性が大きいと思われます。ICPC のための準備ステージとなりますと、開催意義に少し問題があるのではないかと思います。また、世界の ICT 分野で先導的なアメリカ人のビル・ゲイツ (William Henry Gates III, 1955～)、スティーブ・ジョブズ (Steven Paul Jobs, 1955～2011)、マーク・ザッカーバーグ (Mark Elliot Zuckerberg, 1984～) に共通しているのは、高校生くらいの年代に、力強い友人と巡り合い、コンピュータのソフト開発の道に踏み込み、全員が大学は中退していることです。未来を担う ICT 人材の候補として、高校生以下の若い世代に期待し、その底辺充実と優秀な人材の育成に寄与できることを期待します。従来コンテストで頑張っていた大学生の方々は、ICPC 等で世界の強豪を争って、日本のプログラム能力の高さを大いにアピールして下さい。

2. 財務的問題も含めて、参加者への旅費負担を原則として廃止します。

可能性を捨てたわけではありませんが、現状では非常に厳しいので、本選出場が決まりました場合は、交通費等は自費をお願いします。

3. 特別賞として、実施していました中国大連市のソフトウェアパーク訪問を取りやめます。

### 【EPOCH@まつやま 2012 の概要】

「EPOCH@まつやま 2012」の詳細は、追って本ウェブサイトを通じてお知らせしますが、概要は、以下の通りです。参加資格等を除き、ほぼ従来のコンテストの在り方を踏襲しています。

**参加チーム：**全国の高校生、3年生以下の高専生、中学生で2名で構成するチーム

**インターネット予選：**プログラミングの正しさと、回答が寄せられる「先着順」とし、この順で上位 20 チームまでが、愛媛大学で開催される本選への出場権を獲得します。なお、1つの学術機関からは、2チームまでが本選へ選出されます。

**本選第1ラウンド：**ビンゴゲーム形式で、合計 25 個の問題を解答し、正解で 1 マスを獲得し、縦横斜めの 5 マスを獲得し (ビンゴ)、このビンゴ数が多い順、多数が全マス正解

した場合は、要した時間数の少ない順で、上位4チームが第2ラウンドに進出します。

**本選第2ラウンド**：第2ラウンド進出の4チームが、4色オセロ形式により、ゲーム感覚で優勝を競います。

### 【EPOCH@まつやま 2012 の日程（概要）】

「EPOCH@まつやま 2012」の日程概要は、「EPOCH@まつやま」事業計画書をご覧ください。

### 【その他】

以上のように、本年度の「EPOCH@まつやま 2012」は、2007年度から行われてきました従来の「EPOCH@まつやま」とは、参加対象等の変更を加えざるを得ない諸事情のため、皆様方へのご通知も遅れましたこととお詫びします。少し様変わりはしておりますが、基本的な構図は維持して、より「ICT人材の発掘と底辺拡大」という所期の目標に近いものとなるのではと期待しております。ぜひ、全国から多くの皆様のご参加をいただき、快適な晩秋の愛媛県松山市を楽しみながら、全国一の栄誉を勝ち取られますよう頑張ってください。なお、上にも述べましたように、詳細等は、実行委員会で決定次第、本ウェブサイト（URL:<http://epoch.cs.ehime-u.ac.jp/>）を通じてご連絡しますが、ご不明な点その他は、「EPOCH@まつやま」実行委員会（[epoch@cs.ehime-u.ac.jp](mailto:epoch@cs.ehime-u.ac.jp)）へお問い合わせください。